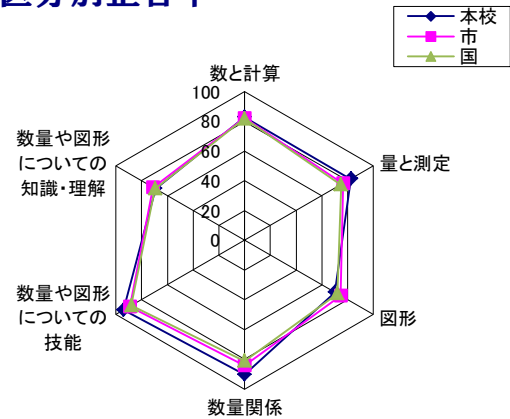


宇都宮市立平石北小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

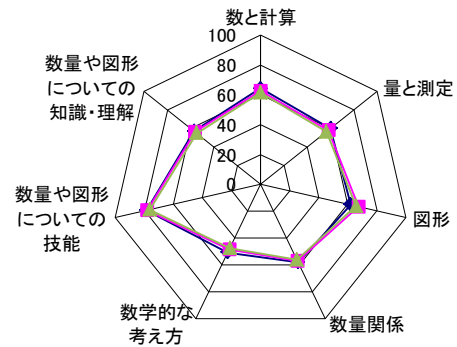
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	82.7	82.2	81.8
	量と測定	82.5	76.4	74.8
	図形	70.2	74.5	71.8
	数量関係	90.5	84.2	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	94.0	89.1	87.9
	数量や図形についての知識・理解	69.3	71.1	69.5



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	64.3	62.6	61.3
	量と測定	60.0	58.0	56.5
	図形	61.9	67.5	65.7
	数量関係	58.1	57.1	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	50.8	48.6	47.8
	数量や図形についての技能	78.6	78.1	76.2
	数量や図形についての知識・理解	57.1	56.3	54.8



★算数に関する質問紙調査の状況

・算数の学習は将来役立つと全員が考えている。「算数の問題の解き方が分からないとき」には、いろいろな方法を試してみようとしたり、「もっと簡単に解く方法がないか」を考えたりしている児童が9割以上いることから、意欲的に取り組もうとしていることが分かる。

★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均は市とほぼ同じだが、加法、乗法、除法の計算や、分数の加法については、正答率がほぼ100%である。	・計算ドリルなどを用いて、繰り返し計算練習を行ったり、既習学年の復習を行ったりしていく。
量と測定	・領域としては、市の平均と比較して上回っている。特に単位量当たりの大きさを求める問題や、棒グラフのかき方について記述で答える問題では、正答率が高い。 ・活用の問題の、説明に用いる適切なグラフを選ぶ問題や、示された情報を基に考える問題においては、正答率は低かった。	・児童が、これまでに学習した内容を用いて、深く考えることを促す発問・教材を工夫する。 ・既習学年の復習を行っていく。
図形	・市の平均と比較するとやや下回っているが、円周を求める問題では、正答率が100%である。 ・立体図形とその見取り図を用いた問題や、平行四辺形の性質を求める問題については、正答率が低くなっている。	・新しい学習内容に入る際に、既習事項の復習を行う。 ・これまでに学習してきたことを用いないと考えられないような問題などに取り組んでいく。
数量関係	・市の平均より上回っている。特に、四則混合の計算の問題においては、90%以上の正答率で、県の平均を上回っている。 ・計算する方法を説明する問題や、求め方を記述で答える問題においては、正答率が低い。	・学習した内容を用いて、考えて説明する活動の場を多く設定するようにしていく。